

緑肥活用による野菜の安定生産

【七飯町高見地区（10戸）】（地域第2係）

令和3～5年度

（課題番号6）

課題の背景

有機物補給、有害センチュウ対策でにんじんやだいこの後作緑肥にエンバク野生種を作付ている

夏期には種のエンバク野生種が、いもち病で生育不良。緑肥としての効果が低下。

緑肥の効果発揮と野菜の安定生産にむけ、夏期の緑肥変更が必要

七飯町の野菜作付ベスト3 (R3)

1位	ねぎ	140ha
2位	にんじん	120ha
3位	だいこん	85ha

活動内容

令和3年

エンバク野生種のおもち病発生実態の把握

- ・重点地区内のエンバク野生種作付ほ場37筆を調査
- ・懇談会等で調査結果を報告
- ・代替緑肥の必要性を提案



エンバク野生種の調査



いもち病被害の大きいほ場

令和4年

夏場の緑肥をエンバク野生種からスーダングラスへの転換を提案

- ・9戸で試験的に栽培
- ・は種状況、生育状況等を確認
- ・巡回、現地研修会、懇談会等で周知
- ・野菜組合等の研修会で周知



現地研修会で代替緑肥に関する情報提供



スーダングラスへの転換を懇談会で提案

令和5年

スーダングラスの作付推進

- ・栽培のポイントを再度周知
- ・だいこん、にんじん収穫後速やかにまく
- ・は種量は5kg/10a
- ・肥料（硫安20kg/10a程度）と混ぜてまく
- ・すき込みの目安はは種後50日前後
- ・9月中にはすき込むように
- ・野菜の品質確認（センチュウ被害の確認）



巡回によりスーダングラス作付推進



前年スーダングラスすき込みほ場で野菜の品質調査実施

活動の成果

(R3) エンバク野生種のいもち病発生実態が明らかに

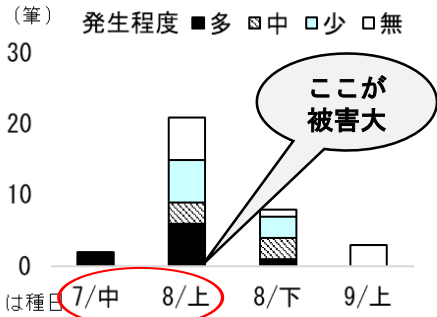


図1 エンバク野生種のは種時期といもち病被害程度の関係 (R3. 9. 16-17調査)

(R4) スーダングラスの試験栽培により収量性を実感

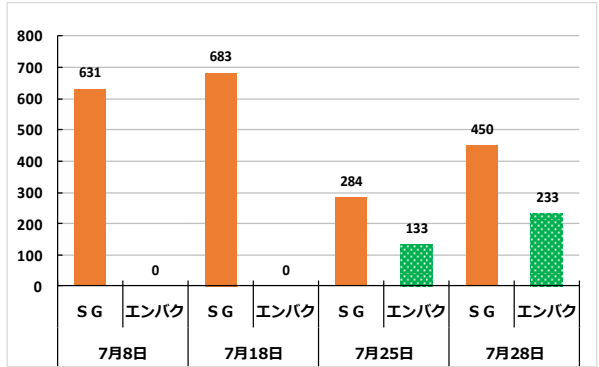


図2 スーダングラスとエンバク野生種の乾物収量比較

(R5) エンバク野生種からスーダングラスに転換、面積も拡大

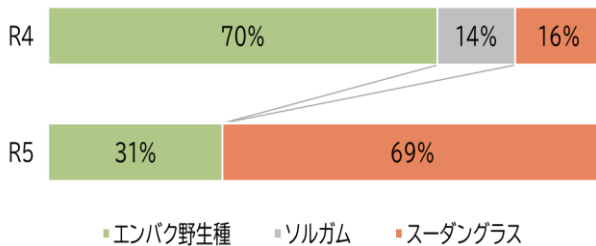


図3 重点地区の緑肥作物割合

(R5) 栽培ポイントの確認により収量もアップ

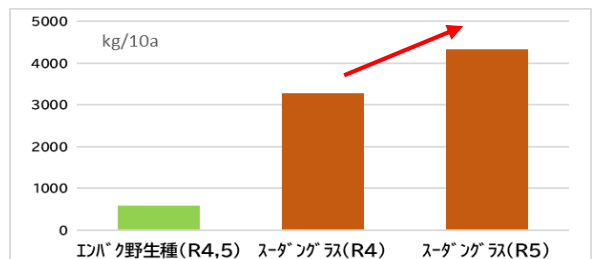


図4 重点地区緑肥生収量の比較

(R5) スーダングラスが七飯町内に波及

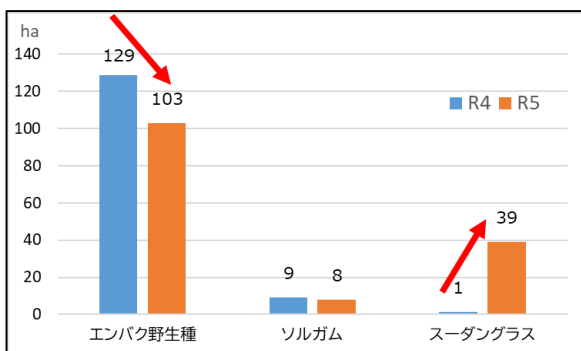


図5 七飯町の緑肥作物面積の変化 (面積はJA種子販売量から算出)



草丈2m以上に伸びたスーダングラス

緑肥をエンバク野生種からスーダングラスに変更しても、センチウ被害はなかったよ。収量もあるし、これからは夏場はスーダングラスをまくよ。



今後の対応

重点地区において、夏期の緑肥の転換について理解が深まった。近隣市町村へのさらなる波及も見込まれる。